



関係性を向上させる コミュニティの 形成とスポーツが 持ち合わせる力

医療法人 青峰会
障害者指定相談支援事業所
地域活動支援センター くじら
施設長・心理士
幸田 裕司



はじめに...

愛媛県八幡浜市、人口約3万8千人の一次産業主体のまちに本部を置く、くじらグループの中に、私が所属する「相談支援事業所／地域活動支援センターくじら」(以下、センター)とある。平成13年4月に地域生活支援センターとして開設し、平成18年に、障害者自立支援法に基づく体系移行を経て現在に至る。当初より、「地域」という大きな枠の中で、障害者が住み慣れた場所ので心地よく生活し続けられるよう、本人や家族のニーズを重視した支援を理念としている。

私は、名古屋生まれの名古屋育ちで、愛媛に来るまで、幼稚園、高校、大学など、多世代にわたる教育機関で仕事をしていたことや、私自身の小学校から始めたサッカーを通じた様々な経験から、子ども同士の交流のみならず、子どもたちを含めた地域の交流の重要性を感じていました。また、障害に対するスポーツの効用は、以前から関連がありとされており、リハビリテーションの部分では、先行して活用されており、最近では注目されている研究分野でもある。愛媛県に来て15年、医療・福祉の現場で働きました以来、障害者の機能改善および交流手段におけるスポーツの活用を模索していた。

繋がりを広げる場として

センターとして活動を始めて4年目を迎えた時に、精神障害者のスポーツ競技に向けた取組みをスタートさせた。それが、精神障害者スポーツ振興事業(ソフトバレーボール大会)である。東・中・南予の地区大会を行い、上位2チームによる県大会、更に中四



フットサルの準備運動の様子

国大会への出場が出来るということ、当事者(選手及び支援者)にとっては、大きな目標のひとつになった。

当初は、センターの毎月の事業「スポーツの目」に合わせてスタートした。精神障害の特徴として対人関係が上手く取れないことが挙げられるが、ソフトバレーを一緒に行う事で選手同士の距離が徐々に近付いている事が認識できた。

平成20年、初めて県大会へ出場したが惨敗。選手たちは、来年の県大会を目指し毎週練習に励んだ。スポーツを通して目標を持ちたむきな選手たちに、スポーツ以外のことも自信を持つて欲しいと思い、運営をセンター主導から選手主導へ意図的に変えた。練習会場の予約や調整、選手個人への連絡など、大半を選手たち自身にしてもらうようにした。周囲からは、「支援出来ない」、「無理をさせてはいけない」などの声が多かったが、ソフトバレーに関することはほとんど選手たちで行えるようになった。平成22年大会で初優勝を果たすなど実力も自信も付けることができた。そして来春2度目の中四国ブロック大会に挑戦をする。

障害児の輝ける場として

5年ほど前から、発達障害の相談が急増し、関心が高まっていた。相談内容は、教育現場や就労に関するものが多い。相談内容を解決する方法として、児童期での介入をすることで、思春期、青年期での影響や変化を好循環させる考えが浮かびあがった。まず平成21年12月から定期的に、精神障害や発達障害のある若者と地域の人をつなぐため、障害の有無に関わらず、地域で生活をする住民・仲間としてのコミュニケーションを図る場を提供した。

そして、八幡浜市発達支援センター「単立ち」と、発達障害児およびその家族対象のフットサル教室を企画した。センターのスタッフも当初は発達障害への理解や対応、フットサル自体の経験の無さなどから不安もあり、発達障害児の保護者団体である「単立ちの会」からも、「学校の体育の授業にも参加しないのに…」、「集団や初めての場所は苦手だから…」との意見も上がったが、まずは「体験から…」と言う形でスタートした。子どもたちは多少の緊張は見られたものの、元氣一杯、満面の笑顔でボールを追い駆けてくれた。終了後、子どもたちは、「結構おもしろかった」、「ボールが蹴れた」、「また次も来たい」といった声が多く聞かれた。支



子どもたちと家族と地域の人

援する保護者も、「走っていた」、「フットサル出来るんだ」、「学校では動かないのに…」など驚きに似た感想を聞くことができた。現在では、主に発達障害児を対象とした「チビっ子の部」と障害の有無に関係なく参加が出来る「地域一般の部」の2部制で活動を継続している。特に「チビっ子の部」は、地域の大人や保護者参加型としている。ある家庭では会話の機会が増えたという声もある。併せて、家族自身のストレス発散にもなっているようで、最近では保護者の楽しみになっているようだ。

障害とスポーツと地域

我々が行っているフットサルやソフトバレーのように、誰にでも「出来る事がある」部分を信じる事が大事だ。それは障害者や家族だけではなく、取り巻く地域においても理解が必要と考え、障害者と地域の交流を取り入れようと、活動スタイルを定着させてきた。今後も、スポーツの力を信じて、いつも笑顔絶やさず楽しみながら、「障害とスポーツと地域」というコンセプトを大事にしていきたい。加えて、誰よりも、自分自身が楽しみながら、色々な活動を継続して、地域づくりのお手伝いをしていければと思っ

最後に、この夏、国内はオリンピックで盛り上がった。そして、障害者スポーツへの関心も高まり、身体障害者のパラリンピック、知的障害者のスペシャルオリンピック、それぞれに選手の活躍が連日のように伝えられた。その中に、精神障害・発達障害の障害者スポーツが入っていないことが残念だ。スポーツ基本法の制定もあり、今後の動きに期待している。



またフットサルしようね！